

趣 旨

「京のイルカと学びのドラマ」プロジェクト総括

京都大学総合博物館教授 大野照文

京都大学総合博物館ではこれまで、小学校から高校まで、探究活動、プロジェクト型学習などを通じた「博物館を使った主体的な学び」を深めるため、学校現場と連携・協働して活動してきました。その一環として、内陸京都で行える海洋教育の可能性を探り、二〇一三年度「海」展、二〇一四年度「学びの海への船出」展などを企画・開催してきました。

二〇一五年二月中旬、京都府宇治田原町で古代のイルカの化石が発見されました。これを発端として、学校の児童・生徒、学生、大学院生、教員、研究者が一堂に会して一年間を通じて学び合うプロジェクトを博物館で、そして学校現場で展開することになりました。これまで京都大学総合博物館で培ってきた海洋教育や学び作りについてのネットワークとノウハウをフルに生かし、他に類を見ない博学連携のプロジェクトです。今回はこの記録と成果を「学びのドラマ」として展示いたします。

二〇〇七年施行の「海洋基本法」以降、全国で展開される海洋教育の試み、そして、学習指導要領で導入予定の「アクティブ・ラーニング」。これらの「新しい学び」に対して京都大学は蓄積された知恵を、総合博物館をハブとして集結させ、学校現場とともに「京大ならではの柔軟で新しい発想で、新たな時代にふさわしい「学び」のあり方を実践・普及していきたいと思っています。

